

放課後等デイサービスおひさまふらす

支援プログラム

2026 年

3 月

4 日

法人（事業所）理念		ひとりのいのちにみんなで寄り添う											
支援方針		『療育は丁寧な子育て』を合言葉に子ども一人ひとりの個性・主体性・可能性を考えながら、一つずつ丁寧に関わるように心がけていきます。 将来、個々の力に合わせた自立が出来るよう①自己コントロールする力 ②人とやりとりする力 ③社会で生きていく力 の3本柱を軸とし、それらを達成するための療育を実施していきます。											
営業時間			10	時	0	分から	17	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	・健康状態の把握と対応（保護者、学校との健康観察の引継ぎ。児童自身の体調の発信の仕方） ・生活習慣や生活リズムの形成（生活リズム・衣類の調整・室温の意識・病気の予防等） ・基本的生活スキルの獲得（基本的技能の獲得・生活環境の調整） ・生活におけるマネジメントスキルの育成（自分で何をするアイデアを出して自分の生活をマネジメントする）								【SSTプログラム・感覚統合プログラム・運動プログラム・製作プログラム・調理プログラム・療育キャンプ等】 ・お集まりの時に健康チェックをする。自分の体調について発信する。			
	運動・感覚	・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ・姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ・身体の移動能力の向上（社会的な場面における移動能力の向上） ・感覚統合・感覚補助、代行手段の活用								【感覚統合プログラム・運動プログラム・製作プログラム・調理プログラム・外出プログラム・個別運動プログラム・公共交通機関の利用・イヤーマフ・クッションマットやイスの滑り止め等の活用・手指トレーニング・感覚統合支援グッズの提供等】 ・指先の巧緻性・目と手の協応・体幹の形成			
	認知・行動	・認知特性の理解と対応 ・外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 ・行動障がいへの予防及び対応								【SSTプログラム・感覚統合プログラム・運動プログラム・調理プログラム・外出プログラム・学習・カフェ・マルシェ・夏祭り・療育キャンプ等】 ・人との交流を通して、自己理解と他者理解が出来るように支援する。 ・タイムタイマーや時計を見て活動できるよう支援する。			
	言語 コミュニケーション	・コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ・コミュニケーション手段の選択と活用 ・状況に応じたコミュニケーション ・読み書き能力の向上								【SSTプログラム・運動プログラム・調理プログラム・外出プログラム・学習・タブレット活用・カフェ・マルシェ・夏祭り・異年齢交流・個別言語療育・療育キャンプ】 ・手順やルールの理解を促す。 ・挨拶をして活動開始、終了報告の習慣			
	人間関係 社会性	・アタッチメントの形成と安定 ・情緒の安定 ・他者との関わり ・遊びを通じた社会性の促進 ・自己の理解と行動の調整 ・仲間作りと集団への参加								【SSTプログラム・運動プログラム・感覚統合プログラム・外出プログラム・調理プログラム・カフェ・マルシェ・夏祭り・異年齢交流・地域交流・療育キャンプ】 ・活動を通して、人とのやりとり(指示に応じる、自ら質問する等)が出来るよう支援する。			
家族支援		・親子関係、きょうだい関係の相談に応じ、子どもの「育ち」や「暮らし」の安定・充実につながるよう支援する。 ・学齢期における子どもの行動上の課題やメンタルヘルスの課題、不登校など、家族の困り事に寄り添い支援する。								移行支援		・同年代の子どもをはじめとした地域における仲間作りを図っていく。 ・移行先への移行に向けた支援をする。 ・子どものライフステージの切り替えを見据えた具体的な準備をする。 ・併用利用先との情報共有を図る。	
地域支援・地域連携		・子どもの育ちや家庭生活の支援に関わる保健・医療・福祉・教育・労働などの関係機関や他の療育事業所と連携して支援する。 ・子どものライフステージに応じた切れ目のない支援と関係者間の連携を大切にする。								職員の質の向上		・熊本県社会福祉協議会主催の研修、知的障がい者施設職員研修会 ・児発管研修・接遇マナー研修・サポーターズカレッジ研修 ・OTと心理師による定期的な実践研修・動作法研修（1回／月）	
主な行事等		・児童発達支援のクラスと「夏祭り」を開催し、異年齢交流を行う。 ・「おひさまカフェ」や「マルシェ」を開催し、接客を通して他の部署の子ども達や職員、保護者等と地域住民と交流する機会を設ける。 ・卒業を控える6年生、中学3年生の「療育キャンプ」を行い、療育の必要性について検証する。											